

## Ⅲ 近年の取組

# 1 道有建築物整備における脱炭素化の取組

## (1) これまでの建築局における省エネなどの取組

建築局では、新築・改築や設備改修などにおいて外断熱工法の採用や太陽光発電システムの導入、温室効果ガスの排出の少ない材料や工法の選定など、省エネルギー化の取組を進めてきました。

## (2) 脱炭素化の取組

道では、2050年までのゼロカーボン北海道の実現に向けて、令和4年(2022年)3月に「北海道地球温暖化対策推進計画」を改定し、2030年における温室効果ガスの排出量を2013年と比較して48%削減する目標を定めました。

さらに、道が事務事業において自ら排出する温室効果ガスについては、50%を削減する目標を定め、施設の高断熱化、設備の高効率化や再エネ設備の導入などに取り組むこととしています。

建築局では、この目標の達成に向けて、道有建築物から排出される温室効果ガスの削減、脱炭素化を推進するため、改築や改修、運用などの方針や基準を定め、道有建築物の整備に計画的に取り組めます。

## (3) 取組事例～道有建築物で初めてのZEBへ～

### 北海道消防学校校舎

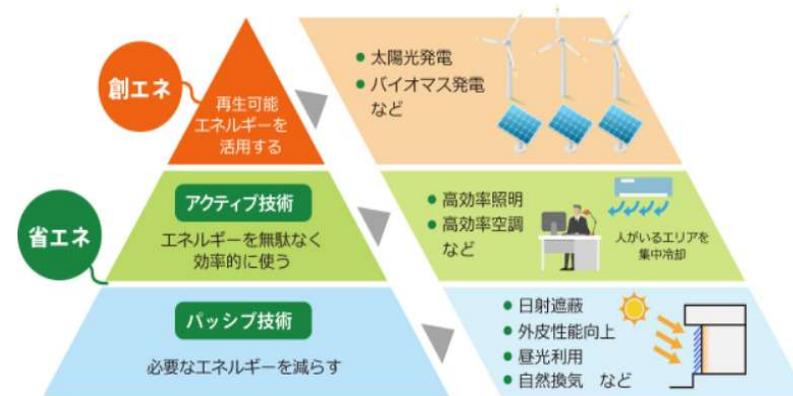
建設地 江別市  
構造規模 RC造 地上2階建  
建築面積 1,342㎡  
延べ面積 2,652㎡  
工期 令和4年12月  
～令和6年6月(予定)

#### ZEBへの主な対応

- ・ 外壁 EPS板t100
- ・ 屋根 硬質ウレタンフォーム板t150
- ・ 窓 Low-E<sup>®</sup> 7か<sup>®</sup> 5G12(Ar)
- ・ 照明 LED(調光・人感制御)
- ・ 空調 空冷式I7CON  
全熱交換型換気(1種)
- ・ 太陽光発電装置(64kW)



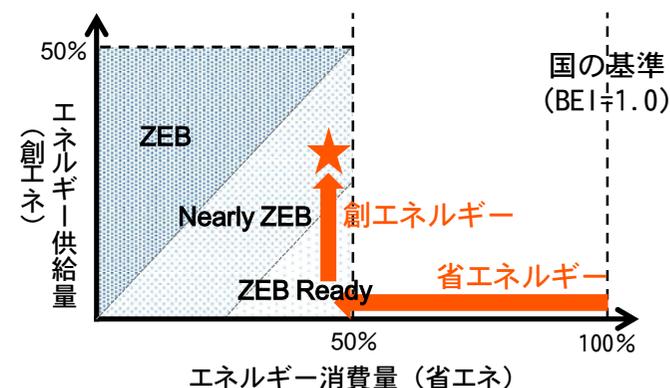
### ZEBを実現するための技術



出典：環境省 ZEB PORTAL

ZEB：建築設計によるエネルギー負荷の抑制や自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入により大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした建築物

### 「Nearly ZEB」として整備 (BEI=0.22(計画))



## (4) Doゼロカーボン建築サポートセンターの設置

### 【目的】

- ・ 建築住宅分野において脱炭素化の取組を効果的に進めるため、(地独)北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所、(一財)北海道建設技術センターと連携し、脱炭素化に取り組む市町村や民間事業者を支援する「Doゼロカーボン建築サポートセンター」を令和4年(2022年)4月建築局建築整備課に設置し、市町村や民間事業者からの相談への対応や研修会の開催などに取り組んでいます。

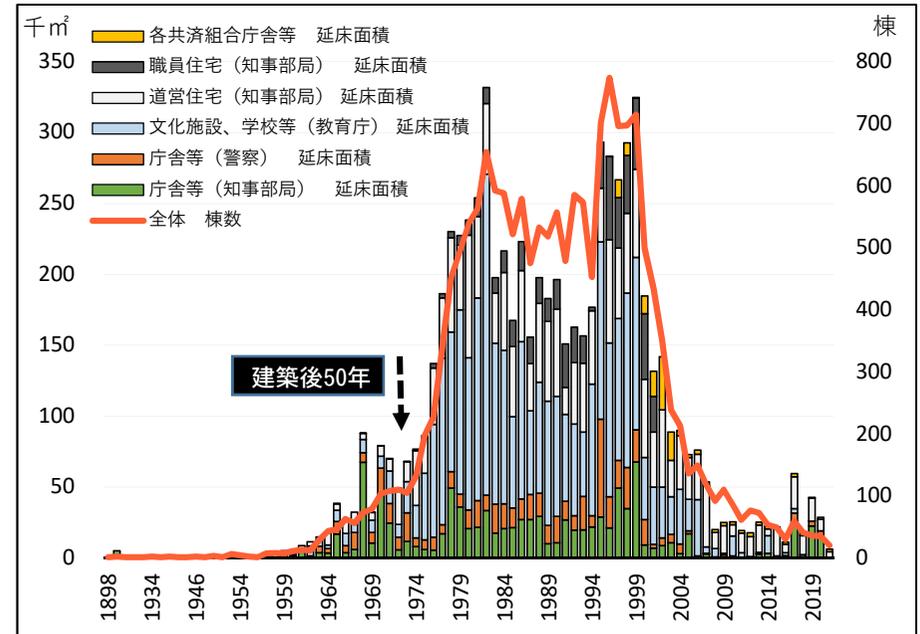
【支援概要】 ①研修会の実施 ②相談窓口の開設 ③専門技術者の派遣

## 2 道有建築物におけるストックマネジメントの推進

ストックの有効活用の観点から、建築物等の長寿命化を図り、効率的な更新整備や保全を行うストックマネジメントは、ますます重要となっています。

道では、約1万7千棟、延べ床面積で約716万㎡を超える膨大な建築物等を有しています。延べ床面積でみると、現在、建築後50年を経過した道有建築物は6%程度ですが、昭和50年代に建設されたものが数多く存在しており、今後、この時代のストックの老朽化が進行し、20年後には50%以上の道有建築物が建築後50年を超える見込みとなっています。

このため、「ファシリティマネジメント推進方針」に基づき、道有建築物の長寿命化や予防保全型の計画的な修繕を進めています。

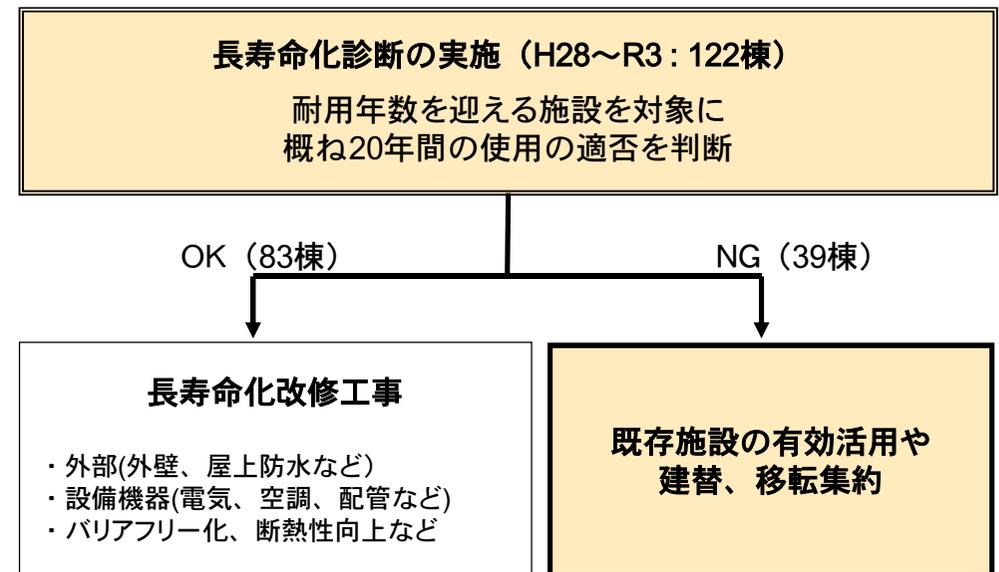


道有建築物（知事部局）における建設年代別施設管理状況（R4.3末現在）

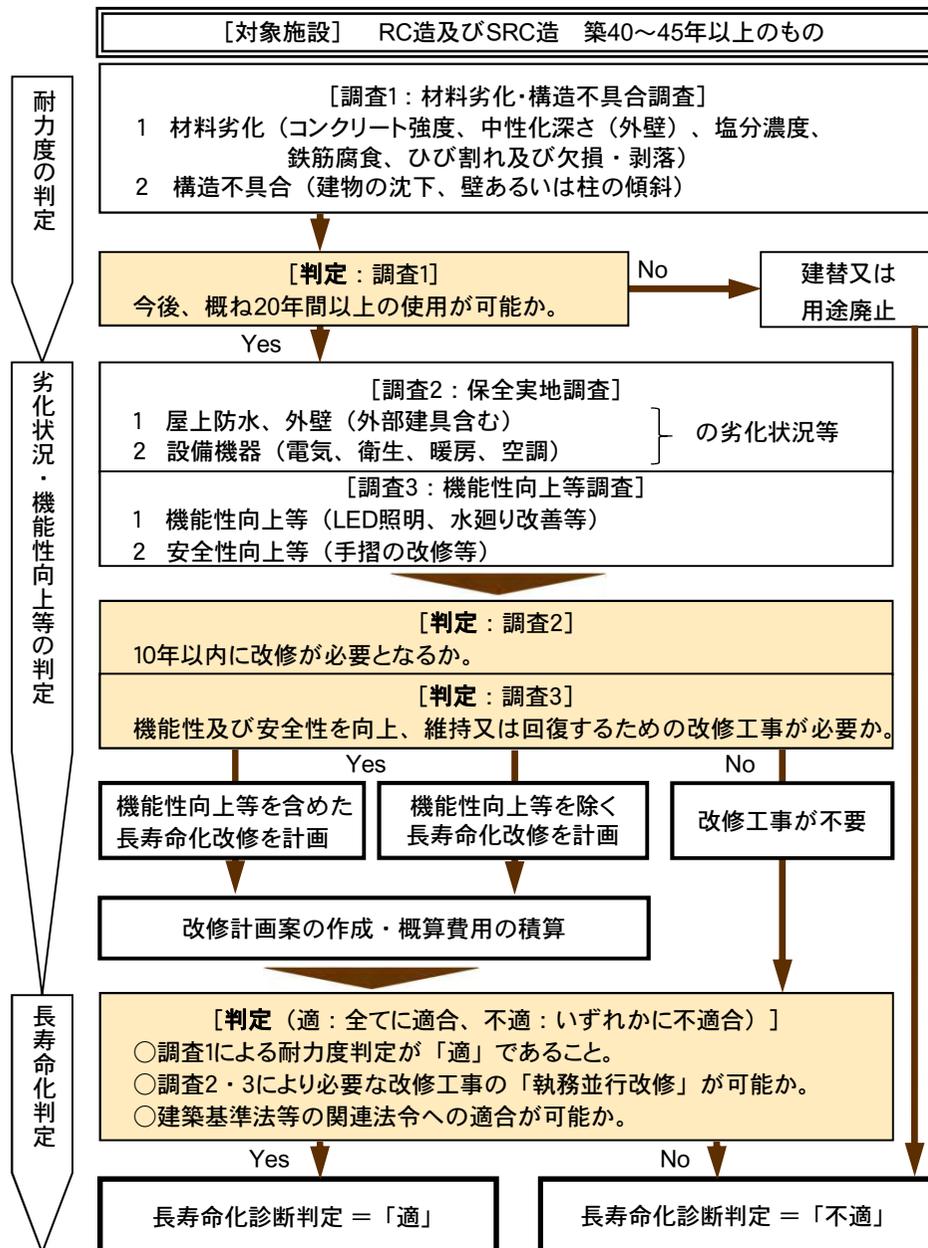
### (1) 長寿命化診断・改修

道有建築物の有効活用の観点から、耐用年数を超える使用期間を想定した長寿命化改修を実施するため、ファシリティマネジメント推進方針に基づき、平成28年度からRC・SRC造、令和元年度からCB造の建築物を対象にコンクリートやコンクリートブロックの強度、劣化状況等の調査を行う長寿命化診断を実施しています。

これまで122棟の診断を実施し、長寿命化が可能と判定した83棟のうち、外壁改修や設備機器の更新などが必要な施設については順次長寿命化改修工事を実施し、長寿命化に適さないと判定した39棟については、改築や移転集約を検討しています。



【長寿命化診断のフロー（RC造・SRC造の場合）】



(2) スtockマネジメントの強化【修繕業務の集約等】

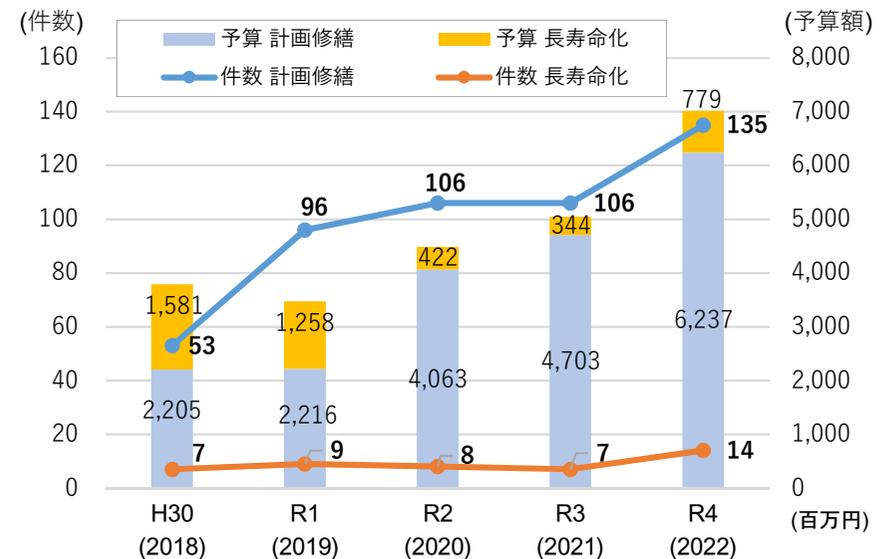
道有建築物の老朽化が一層進行する中、全庁的な視点でのマネジメントの強化、維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減、効率的な修繕業務の実施などを目的に、平成30年度から専門知識を有する技術職員が中心となり、計画から予算の計上、工事の実施までを一体的に行えるよう、知事部局の建築物に関する修繕業務を建設部建築保全課に集約しました。

これにより、予防保全型の計画修繕を積極的に取り組むことができ、令和4年度の修繕予算は、集約当初の平成30年度と比較して、約2倍となっています。

【修繕予算の推移】

(予算単位: 百万円)

	H30		R1		R2		R3		R4	
	件数	予算	件数	予算	件数	予算	件数	予算	件数	予算
計画修繕	53	2,205	96	2,216	106	4,063	106	4,703	135	6,237
長寿命化	7	1,581	9	1,258	8	422	7	344	14	779



修繕予算の推移

### 3 道有施設を活用した道産木材ショーケースの展開

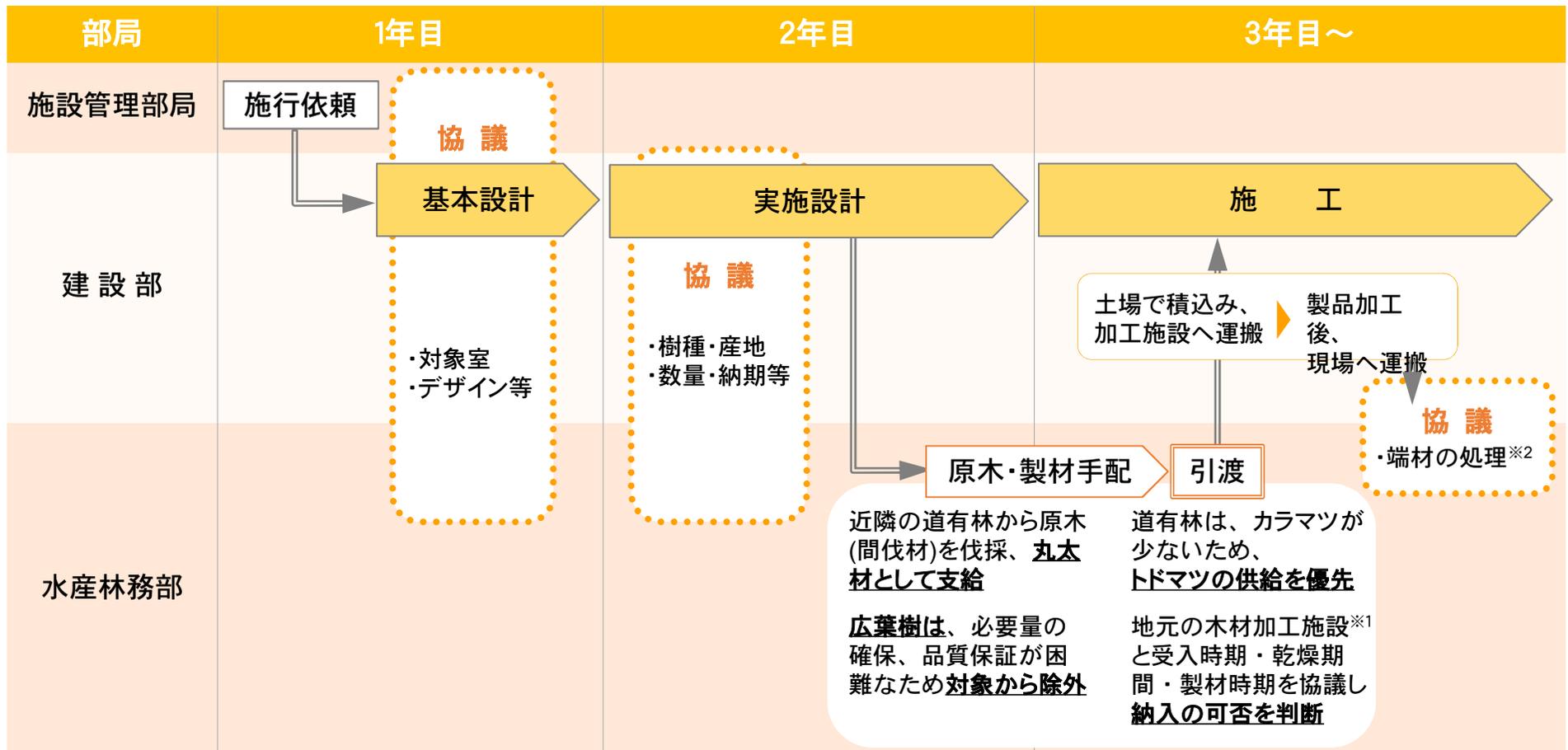
道では、平成23年3月に策定（平成30年3月改正）した「北海道地域材利用推進方針」に基づき、道が整備する建築物については、低層建築物の木造化や内装等の木質化を図るなど地域材の活用を図ってきており、これまで、木造道営住宅や高等学校の内装の木質化、近年では道議会庁舎の内装木質化や北海道北の森づくり専門学院を木造で整備するなど取り組んできました。

しかしながら、木造化・木質化に当たっては、コスト面や地域材を調達する際の納期、公共工事の性質から部材の地域指定が難しいなどの課題があります。

そこで、水産林務部と連携し、道有施設整備の際に道有林材を供給することにより、木造化や内装の木質化をより一層推進する「道産木材ショーケース」の取組を試行的に進めています。

【R4年事業】・新十津川農業高校普通教室棟改築工事  
 ・大野農業高校牛舎棟・羊豚舎棟改築工事  
 ・消防学校校舎改築工事

#### 【取組のイメージ】



※1 木材加工施設は工事受注者において変更可能

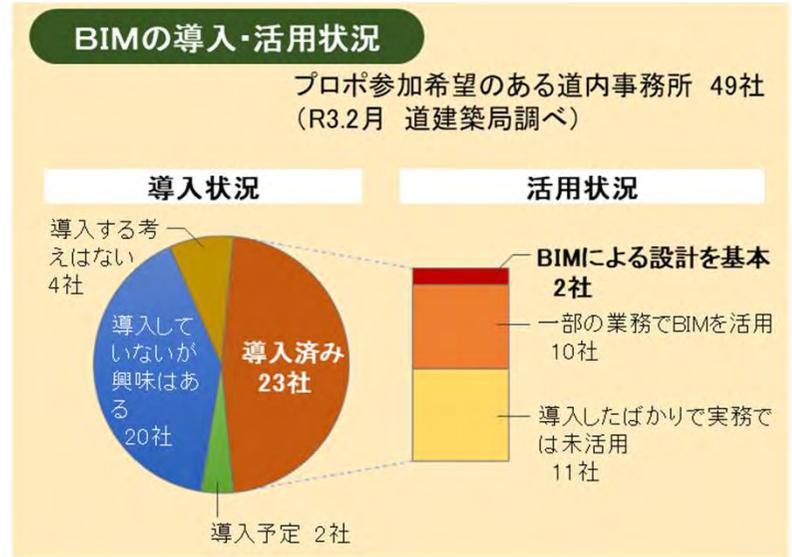
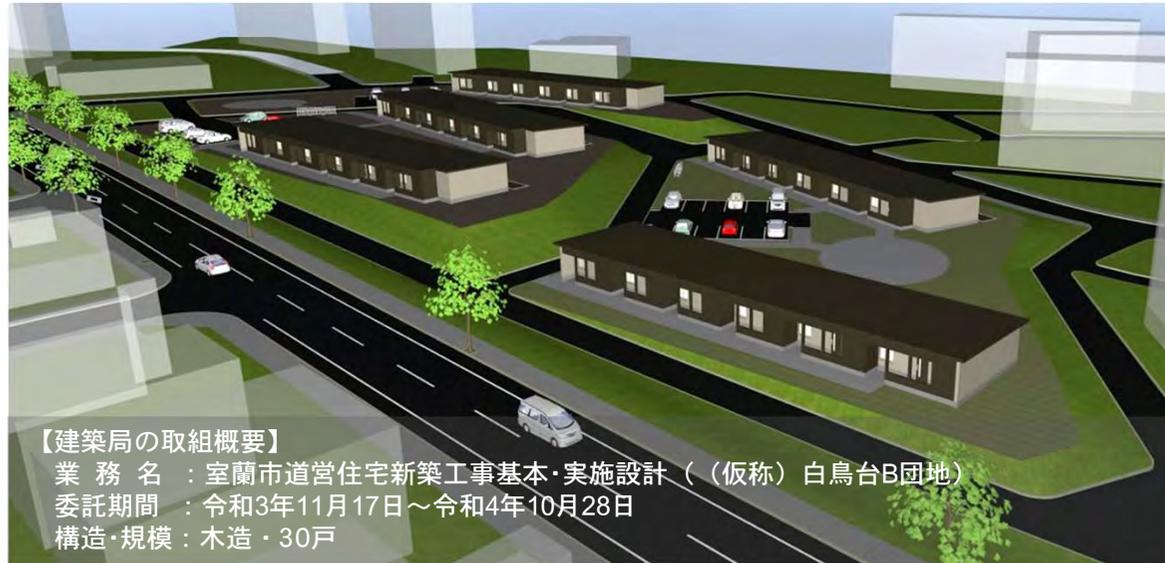
※2 支給材料の端材は、水産林務部と受注者で「返還」か「精算」を協議

## 4 営繕工事におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進

社会経済状況の激しい変化に対応するため、営繕工事においてもデータとデジタル技術を活用して、社会資本や公共サービスを変革すると共に、受注者や発注者の働き方を変革し生産性の向上を図る必要があります。

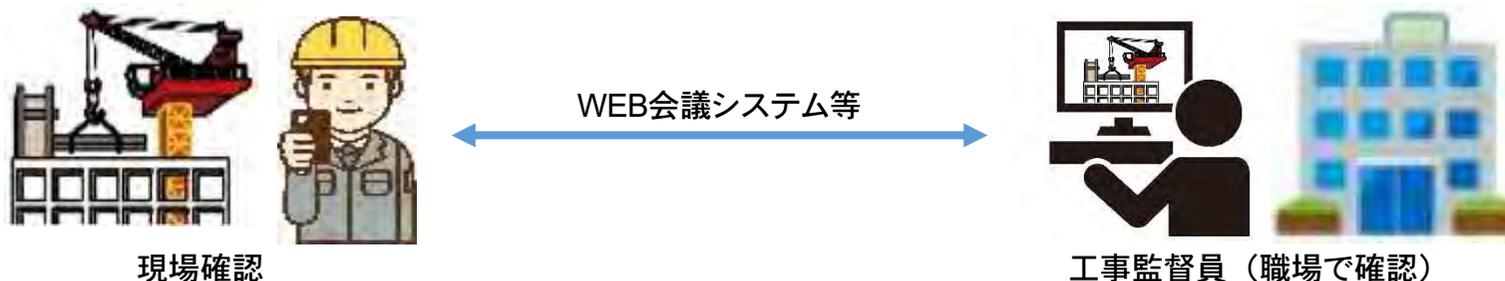
### (1) BIMの試行

建築物の生産プロセス及び維持管理における生産性向上を図るため、道では、令和3年度からBIMを導入した設計委託業務を行っています。



### (2) 遠隔臨場の試行

受注者における「手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「移動時間の削減や立会時間の軽減による効率的な時間の活用」を図るため、令和4年度にモバイル端末等によるビデオ通話（映像と音声の双方向通信）を使用した監督員の「立会」等を行う遠隔臨場を行っています。



## 5 建設業の健全な発展

### (1) 働き方改革への対応

生産年齢人口が減少する中、社会インフラの整備・維持管理や災害対応に重要な役割を担っている建設産業の担い手確保・育成に向けて、建設業等の働き方改革の実現は急務となっています。

#### ① 週休2日モデル工事の実施

建築局では、平成30年度から週休2日モデル工事を実施し、建設業の働き方改革に向けて取り組んでいます。

この取組は、将来の担い手確保に向け、魅力ある労働環境とするために必要不可欠なものであり、労働時間の上限規制が建設業に適用される2024年までに、週休2日制を定着させることを目指しています。

項目	内容
1 週休2日の定義	・本モデル工事における「週休2日」とは、現場作業を行う期間内において、土日・祝日に関わらず、週休2日相当の現場閉所を行うことをいう。
2 対象工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築、電気及び管工事の新築、増築及び改築工事（改修を含む工事、工期末に制限のある工事、工場製作の比率が高い工事は除く）のうち、入札公告文および特記仕様書に「週休2日モデル工事」であることが明記された工事</li> <li>・週休2日の実施については、契約後、受注者が選択する。（受注者希望型）</li> <li>・対象工事以外でも受注者から取組への申し入れがあった場合は、受発注者協議のうえ対象とすることができる。</li> </ul>
3 成績評定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履行確認のうえ、工事施行成績評定で加点する。</li> <li>・不履行による減点は行わない。</li> </ul>

#### 【週休2日履行工事件数と工事割合】

(R4年3月時点)

	H30（新增改築のみ）		R1		R2		R3	
建築工事	7件	30%	37件	45%	66件	76%	48件	81%
電気工事	0件	0%	24件	72%	42件	89%	35件	92%
管工事	2件	17%	22件	55%	54件	76%	22件	87%

## ② 快適トイレの導入

建築局では、平成30年度から男女ともに働きやすい職場環境となることをめざして、男女ともに快適に使用できる「快適トイレ」の導入を行っています。

これまでの現場の仮設トイレは、狭い、不快な匂い、外から丸見えなど良いイメージがありませんでしたが、快適トイレは、洋式便座や水洗機能、匂いの逆流を防止するフラッパー機能、二重ロックなど容易に開かない施錠機能、男女別の明確な表示などを備えたものです。

項目	内容
1 快適トイレの定義	「快適トイレ」とは、男女ともに快適に使用できる仮設トイレの総称であり、具体的な仕様は、国土交通省が決定した標準仕様を準用する。
2 対象工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定価格A等級対象工事とする。</li> <li>・ ただし、小規模な設備工事等、快適トイレの設置期間及び工事費に占める設置費用等を勘案し、設置の効果が不十分と考えられる場合は対象外とする。</li> </ul>
3 標準仕様	<p>(1) 快適トイレに求める標準仕様</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①洋式便座</li> <li>②水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付き含む）</li> <li>③臭い逆流防止機能（フラッパー機能） （必要に応じて消臭剤等活用し臭い対策をとること）</li> <li>④容易に開かない施錠機能（二重ロック等） （二重ロックの備えがなくても容易に開かないことを製造者が説明出来るもの）</li> <li>⑤照明設備（電源がなくても良いもの）</li> <li>⑥衣類掛け等のフック付、又は、荷物置き場設備機能（耐荷重5kg 以上）</li> </ol> <p>(2) 快適トイレとして活用するために備える付属品</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑦現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示</li> <li>⑧入口の目隠しの設置（男女別トイレ間も含め入口が直接見えないような配置等）</li> <li>⑨サニタリーボックス（女性専用トイレに限る）</li> <li>⑩鏡付きの洗面台</li> <li>⑪便座除菌シート等の衛生用品</li> </ol> <p>(3) 推奨する仕様、付属品</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑫室内寸法900×900mm 以上（半畳程度以上）</li> <li>⑬擬音装置</li> <li>⑭着替え台</li> <li>⑮フラッパー機能の多重化</li> <li>⑯窓など室内温度の調整が可能な設備</li> <li>⑰小物置き場等（トイレトペーパー予備置場）</li> </ol> <p>※上記（1）及び（2）は必ず満たさなければならないが、（3）は必須ではない。</p>



## (2) 円滑な施工確保のための各種取組（積算関係）

「適正な予定価格の設定」や「新たな課題」へ対応するため次のとおり取組んでいます。

### ① 実勢価格や現場実態を的確に反映した適正な予定価格の設定

・ 営繕工事における地域外（遠隔地）からの建設資材調達費用の積算方法等の試行	H28.3
・ 執務並行改修工事における時間外及び深夜の作業に係る労務費の積算方法等の試行	R元.7
・ 営繕工事における地域外（遠隔地）からの労働者確保に要する費用の積算方法等の試行	R2.6
・ 型枠単価及び鉄筋加工組立単価の補正	R3.3
・ 改修工事における施工数量が僅少及び少量の取扱い	R3.3
・ 再積算時における営繕工事設計内訳書の単価入れ替え等及び設計変更時の単価の特例	R3.7

### ② 新たな課題への対応

・ 熱中症対策に係る費用計上の試行	R元.9
・ 営繕工事における快適トイレ設置工事	R2.9
・ 労災補償に必要な法定外の保険契約における保険料並びに現場従業員及び現場雇用労働者の墜落制止用器具費（フルハーネス型）の現場管理費率の補正	R3.3
・ 週休2日モデル工事における労務費等の補正	R3.5

### (3) 工事等優秀業者の表彰

施工技術の一層の向上や品質確保を図るため、工事等優秀者の表彰を継続して実施しています。

● 受賞者一覧

年度	工事部門					委託部門				
	建築工事		電気工事		管工事	建築設計		設備設計		
H26	葵建設(株)	釧路市	大昭電気工業(株)	帯広市	(株)岡田商会	知内町	(株)高岡建築設計事務所	札幌市	(株)北日本技術コンサル	札幌市
	国策建設(株)	札幌市	(株)電業	旭川市	紳設備工業(株)	釧路市	北海道建築設計監理(株)	札幌市		
	菱中建設(株)	札幌市	(株)東興電気工業	釧路市	(株)ふじ研究所	札幌市				
	藤原工業(株)	幕別町								
	村井建設(株)	釧路市								
H27	伊藤組土建(株)	札幌市	(株)北弘電社	札幌市	池田暖房工業(株)	札幌市	(株)高岡建築設計事務所	札幌市	函館設備設計家(協)	函館市
	岩倉建設(株)	札幌市	双豊電気(株)	札幌市	(株)ダンテック	札幌市	(株)ハウ計画設計	札幌市		
	岩田地崎建設(株)	札幌市	北盛電設(株)	札幌市	(株)日新工業	札幌市				
	佐竹建設(株)	岩内町								
	(株)高木組	函館市								
H28	岩田地崎建設(株)	札幌市	エスケー電気(株)	北見市	池田暖房工業(株)	札幌市	(株)遠藤建築アトリエ	札幌市	(株)ビーゴーイング	札幌市
	(株)早水組	網走市	北電力設備工事(株)	札幌市	(株)工成舎	札幌市	北海道建築設計監理(株)	札幌市		
	北成建設(株)	北見市	(株)電建	北見市	道央興産(株)	岩見沢市				
	(株)丸竹竹田組	札幌市								
	丸彦渡辺建設(株)	札幌市								
H29	伊藤組土建(株)	札幌市	(株)北口電器商会	帯広市	(株)奥原商会	帯広市	(株)都市設計研究所	札幌市	アド・エンジニアリング(株)	札幌市
	岩倉建設(株)	札幌市	弘和電気(株)	札幌市	紳設備工業(株)	釧路市	日本都市設計(株)	札幌市		
	鐘ヶ江建設(株)	北見市	(株)結城電気工事	札幌市	(株)ダンテック	札幌市				
	(株)田中組	札幌市								
	(株)中山組	札幌市								
H30	岩田地崎建設(株)	札幌市	(株)北弘電社	札幌市	池田暖房工業(株)	札幌市	(株)アトリエブク	札幌市	(株)北日本技術コンサル	札幌市
	澤田建設(株)	北斗市	橋本電気工事(株)	札幌市	大同工業(株)	釧路市	(株)ドーコン	札幌市		
	(株)高木組	函館市	北盛電設(株)	札幌市	(株)ふじ研究所	札幌市				
	(株)松本組	函館市								
	丸彦渡辺建設(株)	札幌市								
R1	荒井建設(株)	旭川市	(株)札幌機電工業所	札幌市	央幸設備工業(株)	札幌市	(株)西村建築設計事務所	札幌市	そうごうシステムデザイン(株)	北見市
	伊藤組土建(株)	札幌市	(株)創電	岩見沢市	(株)奥原商会	帯広市	北電総合設計(株)	札幌市		
	盛興建設(株)	苫小牧市			(株)共立	釧路市				
	(株)廣野組	旭川市								
	(株)丸竹竹田組	札幌市								
R2	(株)盛永組	旭川市								
	岩倉建設(株)	札幌市	三共電気工業(株)	札幌市	藤井設備(株)	札幌市	(株)遠藤建築アトリエ	札幌市	アド・エンジニアリング(株)	札幌市
	(株)高木組	函館市	北盛電設(株)	札幌市	恒完工業(株)	札幌市	(株)札幌日総建	札幌市		
	佐竹建設(株)	岩内町	北電力設備工事(株)	札幌市	(株)日新工業	札幌市				
	大野土建(株)	士別市								
R3	澤田建設(株)	北斗市								
	伊藤組土建(株)	札幌市	(株)遠軽電機	遠軽町	池田暖房工業(株)	札幌市	(株)創健社	札幌市	(株)真記設備設計事務所	札幌市
	(株)カツイ	岩見沢市	(株)電業	旭川市	(株)ダンテック	札幌市	(株)高岡建築設計事務所	札幌市		
	(株)高組	旭川市	(株)北弘電社	札幌市	(株)ふじ研究所	札幌市				
	(株)中山組	札幌市								
丸彦渡辺建設(株)	札幌市									

## (4) 工事の品質確保

### ① 総合評価落札方式の適用

建築局では、平成19年度から価格に加え技術提案等の価格以外の要素も総合的に評価して落札者を決定する方式「総合評価落札方式」の試行を開始し、令和3年度までに高度技術提案型2件、標準型13件、簡易型827件で実施しています。

### ② 安全パトロールの実施

建築局が発注する営繕工事において、工事現場を直接視察し「安全管理の徹底」、「労働環境の改善」及び「建設業法の遵守」について指導、啓発を行うことにより、工事の安全確保及び労働環境の改善を図ることを目的として実施しています。

今後も、適正な施工体制の確保による工事の品質確保を図るため、全国労働衛生週間に併せて実施します。

● 総合評価落札方式の審査タイプ別審査実績一覧 (単位：件)

形式等	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
高度技術提案型						1		1
標準型	4	2		2	4		1	
施工計画 審査タイプ	I型	8	4	2	15	14	7	6
	II型			2	5	10	2	4
	III型	10	28	6				
施工実績審査タイプ	30	32	61	60	71	78	50	79
合計	52	66	71	82	99	88	61	90

● 安全パトロール実施一覧

年度	箇所数
H26	9
H27	7
H28	中止
H29	9
H30	8
R1	7
R2	10
R3	9

## (5) 工事及び委託業務施行成績評定の実施

工事及び委託業務施行成績評定については、工事受注者及び業務委託受託者の適正な選定及び指導育成に資することを目的として実施しています。

施行成績評定は、工事においては総合評価方式における標準評価項目として活用し、業務委託においてはプロポーザル方式による設計者の選定時に設計者の実績を客観的に評価するために活用しています。

● 評価結果一覧

区分	平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和2年度				令和3年度			
	件数	平均点	最高点	最低点	件数	平均点	最高点	最低点	件数	平均点	最高点	最低点	件数	平均点	最高点	最低点																
<b>■ 工事</b>																																
建築	77	79.9	84	75	102	79.8	86	66	68	80.7	87	75	103	80.6	87	72	105	80.1	84	73	102	80.3	85	76	111	80.6	84	75	103	80.9	85	77
電気	40	78.4	85	64	35	78.3	83	72	22	78.1	84	71	36	78.7	85	74	28	79.0	84	74	39	79.3	84	74	53	79.9	84	72	49	79.7	84	73
機械	51	77.6	83	68	55	78.6	85	72	32	77.2	82	69	53	78.8	85	68	38	78.2	83	72	50	78.8	84	71	84	78.1	85	71	53	78.4	84	73
土木	10	92.8	95	89	12	93.2	95	90	13	92.4	95	90	13	90.3	95	83	8	91.0	94	82	8	91.8	93	89	14	92.1	94	89	7	91.7	93	90
工事全体	178	79.6	95	64	204	80.0	95	66	135	80.6	95	69	205	80.4	95	68	179	80.0	94	72	199	80.2	93	71	262	80.3	94	71	212	80.4	93	73
<b>■ 委託業務</b>																																
建築設計	42	79.3	84	70	44	79.4	87	71	54	80.4	85	73	65	80.6	86	77	62	80.6	83	74	55	79.8	85	73	56	80.4	83	78	77	80.3	83	78
設備設計	24	75.9	79	71	24	76.0	80	70	26	76.7	79	72	30	77.4	81	70	40	77.5	83	60	50	77.7	81	74	43	77.0	82	70	64	77.7	82	67
建築監理	23	77.0	86	67	22	79.9	85	74	24	80.1	83	77	33	80.2	82	77	40	80.2	83	77	37	80.4	85	77	62	80.6	83	78	69	80.4	82	77
設備監理	10	74.3	79	67	21	74.9	80	69	11	74.0	77	66	19	75.7	79	70	14	74.6	80	61	19	76.5	80	55	59	76.5	82	67	52	77.2	81	60
土木設計	8	90.4	94	89	13	92.1	96	90	8	91.3	92	90	10	92.3	94	90	9	92.4	94	91	10	93.5	96	91	7	92.9	94	88	9	92.6	94	88
土木監理	10	90.9	95	88	9	91.9	96	90	10	91.6	93	90	14	92.7	96	85	9	94.1	96	93	9	92.4	96	90	13	92.9	94	92	11	91.8	92	91
測量調査	4	87.5	91	83	1	92.0	92	92	3	86.3	90	84	3	91.0	93	90	2	92.5	94	91	-	-	-	-	3	92.0	94	90	2	92.0	92	92
地盤調査	9	84.4	90	82	8	85.9	88	83	7	85.9	90	84	9	87.2	90	85	10	87.3	92	85	9	88.4	90	85	7	87.7	90	85	9	87.0	90	85
その他	3	80.7	82	80	1	83	83	83	3	81.0	82	80	2	82.0	84	80	3	82.7	83	82	1	82.0	82	82	1	82.0	82	82	8	82.6	84	82
委託全体	133	80.1	95	67	143	80.3	96	69	146	81.0	93	66	185	81.5	96	70	189	81.1	96	60	190	80.8	96	55	251	80.3	94	67	301	80.3	94	60

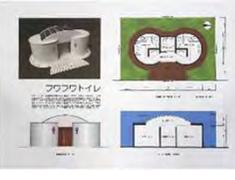
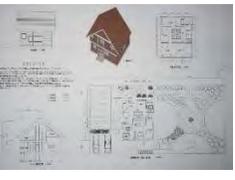
## (6) 高校生建築デザインコンクール

建築局では、建築設計3団体（公益社団法人日本建築家協会北海道支部、一般社団法人北海道建築士事務所協会、一般社団法人北海道建築士会）と共催で、道内の建築を志す高校生の勉学の励みとし将来の建築技術者となる若年層の育成を図るため、道内の高等学校（建築系学科）に在籍する生徒から自由な発想によるデザインを募集し、その提案を施設整備に取り入れていく『高校生建築デザインコンクール』を実施しています。

最優秀作品賞に選ばれた作品の設計趣旨は、実際に施設整備を行うときに、可能な範囲で設計に反映させています。

今後も、高校生らしい若さあふれるデザインの導入として本コンクールを活用するとともに、高校生（建築系学科）の建築設計や営繕行政の関心を高めるため、継続して実施していきます。

### ●平成26年度から令和3年度の実施状況

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
課題 「公園内の バーベキューハウス」	課題 「子どもたちのための 小さな図書館」	課題 「高等学校の 農業実習管理棟」	課題 「水景（噴水）施設の 利用者休憩所としての四阿」	課題 「北海道立エロジ・パーク内の 屋外トイレ」	課題 「北海道子どもの国の パーゴラのある四阿」	課題 「南幌町みどり野きた住まいる ヴィレッジに建つ北方型住宅」	課題 「身近なバス停留所の 上屋」
構造・規模 木造平屋建て 100㎡程度	構造・規模 木造平屋建て 300㎡程度	構造・規模 鉄骨造平屋建て 300㎡程度	構造・規模 木造平屋建て 24㎡以上30㎡以下	構造・規模 構造指定なし 平屋建て 25㎡以上30㎡以下	構造・規模 構造指定なし 平屋建て 70㎡以上100㎡以下	構造・規模 構造指定なし 平屋又は2階建て 120㎡程度	構造・規模 構造指定なし 平屋建て 5㎡以上15㎡以下
応募状況 応募作品 67作品 応募者 108名	応募状況 応募作品 93作品 応募者 148名	応募状況 応募作品 86作品 応募者 142名	応募状況 応募作品 108作品 応募者 152名	応募状況 応募作品 111作品 応募者 173名	応募状況 応募作品 148作品 応募者 169名	応募状況 応募作品 144作品 応募者 155名	応募状況 応募作品 111作品 応募者 128名
最優秀作品賞受賞者 美唄尚米高等学校 遠山 大騎 3年 近江 信哉 3年 岸 龍彦 3年	最優秀作品賞受賞者 苫小牧工業高等学校 富樫 聖香 3年	最優秀作品賞受賞者 函館工業高等学校 三浦 和寧 3年	最優秀作品賞受賞者 苫小牧工業高等学校 田村 祐太 3年 菅原 拓 3年 澤田 元輝 3年	最優秀作品賞受賞者 苫小牧工業高等学校 鈴木 達也 1年 板垣 謙典 1年 松芳 大輔 1年	最優秀作品賞受賞者 苫小牧工業高等学校 最上 稜平 3年 佐藤 柚輝 3年	最優秀作品賞受賞者 小樽未来創造高等学校 阿部 大翔 3年	最優秀作品賞受賞者 苫小牧工業高等学校 早坂 亮哉 3年 西村 理沙 3年
							
							

※詳細や他の作品についてはHPに掲載していますので、ご覧ください。

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kkr/architectural-design-competition.html>

